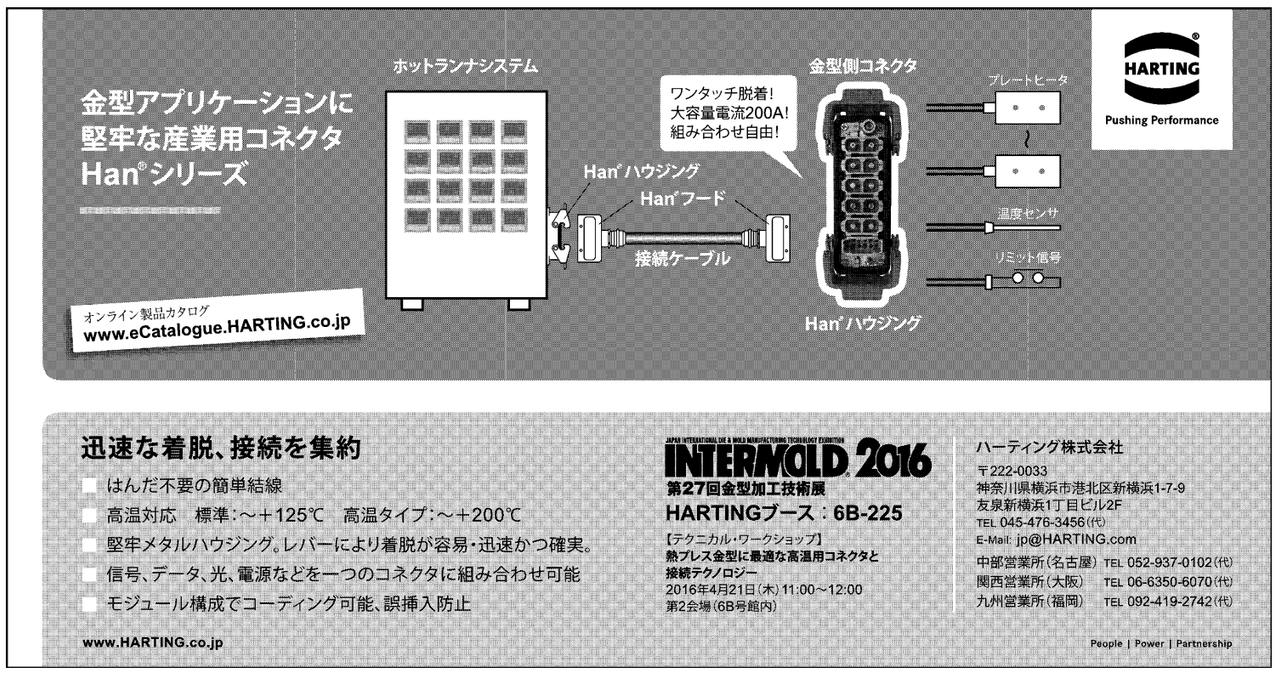


最先端の金型加工と成形加工技術の専門展

INTERMOLD 2016
金型展2016
金属プレス加工技術展2016

INTERMOLDなど3展示会は毎年、会場を東京と大阪で交代して開かれている。プレス、鍛造、ダイカスト、プラスチックなどに使われる金型や金属プレス加工技術などは日本のモノづくり力を下支えするサポーティングインダストリー（基盤技術産業）の代表格であり、それらに関する最新情報が発信される専門イベントとして定着。「金型」や「プレス加工」分野と異分野・異業種とのビジネスマッチングを目的とした企画も催される。

440社・団体、906小間出展

今回は出展者数が昨年より13社・団体、34小間多い440社・団体、906小間の規模へと拡大し、数多くの最新技術などが披露される。4日間の期間中には多様な分野から5万人の来場が見込まれている。

新技術提案

インテックス大阪の会場では6号館のAとBのホールで、工作機械メーカーをはじめ、切削工具や研削砥石、CAD／CAM／CAEシステム、測定機、試作・モデリング関連企業やプレス機械メーカーなどがブースを構える。モノづくり企業に大きな影響を与えたリーマン・ショックから今年で8年目。ますますグローバル競争が激化する厳しい環境の中で力をつけてきたさまざまな新技術提案が行われる。

大手工作機械メーカーからは自動車向けなどで増えている中物、大物の金型向けの高速・高精度加工や、これまでの研削効率を大幅に改善する研削加工の新技術の紹介などが行われる。工具メーカーからは航空機分野などで増える難削材を高能率で加工するソリューションなどが披露される。

また今年一大テーマとして関心が高いのが、インターネットで「つながる工場」を目指したモノのインターネット（IoT）関連での情報発信。工具や切削条件などをネットワークを通じて入手し、5軸制御マシニングセンターや数値制御（NC）プログラムなどを最適化するような取り組みが求められており、関連技術やシステムの情報発信に注目が集まる。

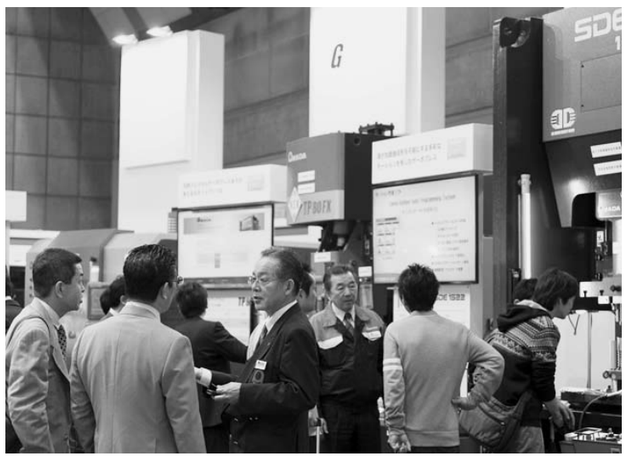
多彩な企画

展示会に合わせた多彩な企画もそろっている。特にさまざまな業種の関係者が交わり生み出される新たなモノづくりの必要性への提案が注目される。開幕日の20日11時からの基調講演では、日本自動車部品工業会の中村克己副会長（カルソニックカンセイ会長）が登壇。部工会で取り組む環境問題への対応策、また自動運転車や環境関連などの最新技術動向や、自動車部品産業が置かれている課題や生き残りのための方向性、金型や成形など生産技術への期待などついて解説する。

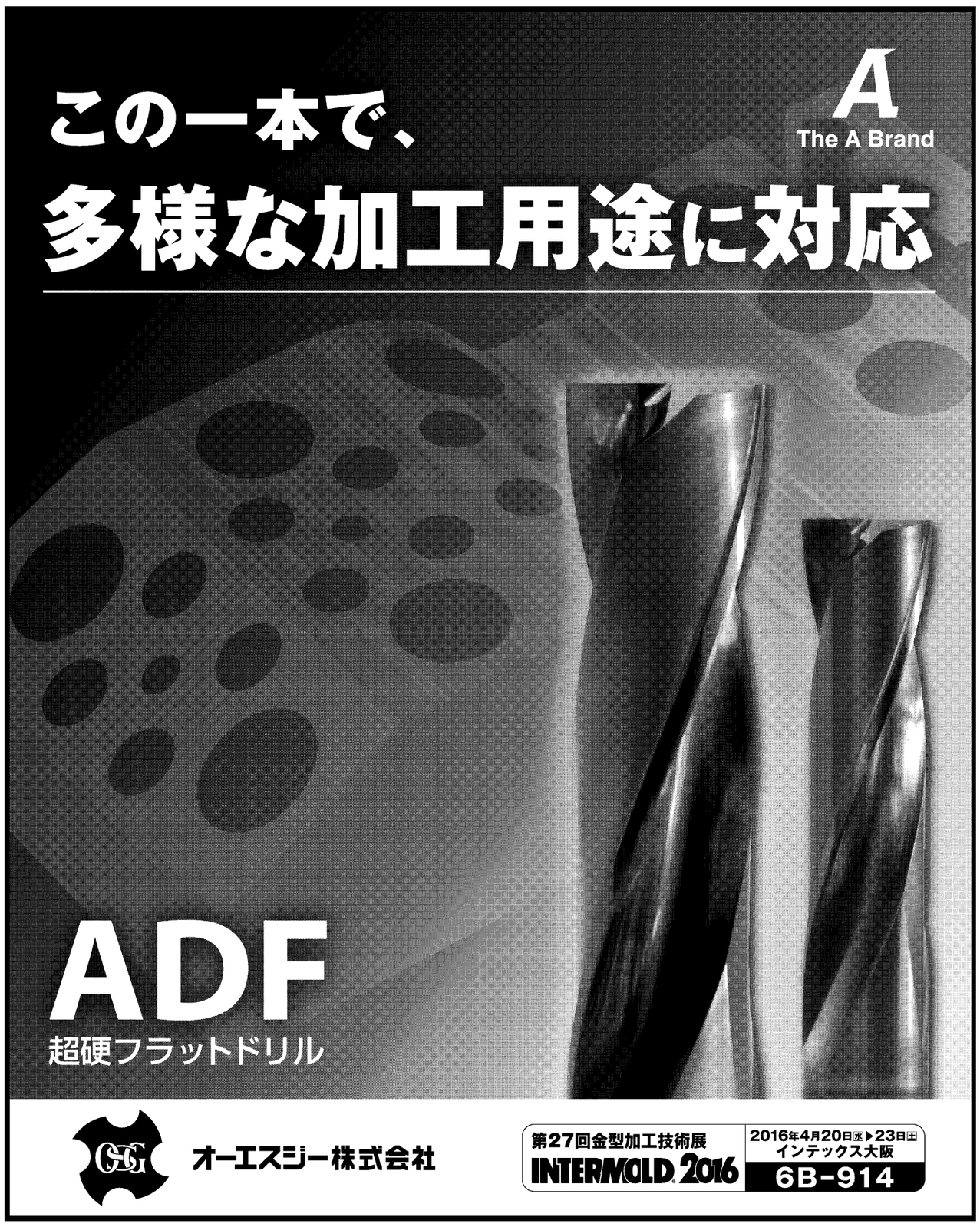
22日13時からは日本金属プレス工業協会主催の「グローバル市場の中のものづくり産業―国内生産か国外生産かそれとも…―」と題し、芝浦工業大学の相澤龍彦教授をコーディネーターに、大学研究者や企業経営者らが集い、日本固有のモノづくりDNAをいかに世界に提案していくのか語られる。

デザインや3Dプリンター関連では「試作・デザイン・解析&3Dプリンティングフェア」で、20日15時からオートデスクの加藤久喜技術営業本部マネージャーが、航空機大手の欧エアバスと協業して取り組んだ軽量化技術の開発事例などを紹介し、3Dプリンター活用のグローバルトレンドなどを発信する。

20日12時半からの「航空機部品製造技術フェア特別セミナー」では、川崎重工業社友の榊達朗氏らが日本の民間航空機産業の展望などについて、22日11時からまんてんプロジェクト主催による「始まったドローンの産業利用」では、日本UAS産業振興協議会の千田泰弘副理事長が、飛行ロボット（ドローン）の産業利用に関する世界の技術動向、改正航空法の概要などを語る。



学生も参加

このほか、次世代のモノづくりを担う学生が金型製造技術を披露する「第8回学生金型グランプリ」のコーナーが日本金型工業会ブース内に設けられ、学生との交流の場となる。22日13時から学生自身によるプレゼンテーションも行われる。

「テクニカル・ワークショップ」「オープンセミナープログラム」（次ページ表参照）などでは直接、出展企業のプレゼンテーションを聞くことができる。これら併催イベントの詳細はウェブサイト（www.intermold.jp）へ。